

# 第2次福島町子ども読書活動推進計画

## 平成30年度～平成34年度

平成30年3月27日策定

福島町教育委員会

(福島町読書活動推進計画策定委員会)

# 目 次

第1章	計画の策定について	2
I	計画の策定・趣旨	
II	福島町の現状	
III	計画の対象	
IV	計画の期間	
V	計画の目的	
第2章	計画のための取り組み	
I	家庭における読書活動の推進	3
II	幼稚園・保育所における読書活動の推進	5
III	学校における読書活動の推進	7
IV	福祉センター図書室における読書活動の推進	10
	取り組みの目標値	14
	読書アンケート回答者内訳	15
資 料	読書アンケート結果（児童・生徒、保護者）	

# 第1章 計画の策定について

## I 計画の策定・趣旨

平成13年度に国では「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定しました。第2条には「子ども（おおむね18歳以下）の読書活動は、全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動ができるよう、積極的にそのための環境整備が推進されなければならない」と基本理念が示されています。また、道では「北海道子どもの読書活動推進計画」、が平成15年度の第一次計画から平成25年の第三次計画までを制定し、平成30年度からは「（仮称）新しい教育計画」の個別計画として策定し、子どもの読書活動の環境整備が行われます。

当町の計画を策定するに当たり、平成29年度に各学校及び町内の小中高校の全児童生徒と幼稚園・保育所、町内の小中高校の保護者を対象に読書アンケートを実施しました。回答や意見をまとめた結果を踏まえ、読書活動の推進のために必要な事項や改善点など子ども読書活動推進計画策定委員会で討議を重ね、本計画の策定にあたったものです。

## II 福島町の現状

当町では、平成17年から開始した乳幼児対象の「ブックスタート事業」を毎月実施し、福祉センター図書室の本を各学校で貸出する「移動図書事業」や、ボランティアによる「絵本の読み聞かせ会」など、各学校やボランティア団体、福祉センター図書室との連携を図りつつ、読書活動を推進する事業を行ってきました。また、北海道立図書館の協力を受け、「学校ブックフェスティバル」や「本まつり」「図書室ブックフェスティバル」も継続的に行うなど、読書活動の推進のための様々な取り組みを実施しています。

## III 計画の対象

この計画は、0歳から18歳までの子どもを対象とします。

## IV 計画の期間

平成30年度から平成34年度までの5年間とします。

## V 計画の目的

福島町の子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書

活動を行うことができるよう、家庭・地域・学校等の連携を進め、積極的にその環境整備を図るよう、本計画を策定するものです。

## 第2章 計画のための取り組み

### I 家庭における読書活動の推進

子どもが本に親しみを持つためには、学校や幼稚園・保育所で本に触れるだけではなく、家庭内でも読書環境を整えることが読書活動の推進には不可欠です。

#### (1) 現状と課題

福島町では現在、子どもが保護者とともに本と出合う機会を提供することを目的としてブックスタート事業を行っており、0歳児からの読み聞かせを推進しています。基本的に毎月実施し、ボランティアによる絵本の読み聞かせ活動及び乳幼児検診時の読み聞かせ活動、検診箇所への配本を行っています。

本の読み聞かせは子どもに本の楽しさを伝えるとともに、親と子のコミュニケーションを増やすことができます。ブックスタート事業については、家庭でも読書に触れる習慣をつくる最初のきっかけとして、これからも創意工夫し、さらなるサービスの向上を図る必要があります。

平成29年に行った読書アンケートによると、児童生徒の保護者に対し、「絵本等の読み聞かせに関心がありますか？」という質問の中で「関心がある」と答えた人は約9割と非常に多いのですが、その中で実際に「読み聞かせを行っている(いた)」人は約5割という結果でした。「どうすれば福島町の子どもたちが自主的に本を読むようになるとおもいますか」という質問で、最も多かった答えは「学校で読書時間を増やす」で、次に多かったのが「家庭内の読書環境を整える」でした。

保護者が子どもの読書活動の大切さを知ることにより、それを子どもに伝えることができます。世代を超えて、読書の魅力を伝えることが大切です。

課題1：ブックスタート事業の拡充

課題2：保護者に対する啓発活動の推進

課題3：家庭への情報提供の推進

課題4：読書活動を支える人材の養成

## (2) 今後の方針

家庭で行う読書活動として、「うちどく（家読）」という取り組みがあります。うちどくとは、読んだ本について家庭で語り合う中で読書習慣を共有し、それぞれの意見を自由に話し合うものです。また、家庭だけでなく学校で友達とそれぞれ読んだ本について話し合うことも良い刺激になります。読書を通じて家庭でのコミュニケーションの機会を増やすことができるうちどくを周知し広めていく中で、読書活動の推進を図っていきます。

また、読み聞かせボランティアと協力し、読み聞かせに接する機会を増やし、保護者向けの講習会などを開催することで読み聞かせにふれる場を提供するなど、読み手の環境にも配慮する必要があります。まずは読み聞かせを体験してみることが、図書室サポーターの協力者を増やすきっかけづくりにも結びつくと考えています。

さらに図書室サポーター養成の講習会を開催し、町内のボランティアや児童生徒の保護者から読書活動に関する協力を得るなど、ボランティアの啓発に力を入れ、協力を得ることができるような環境づくりに取り組んでいます。

## (3) 具体的な推進方策

課題1：ブックスタート事業の拡充

①ブックスタート事業の継続

\*平成17年度から乳幼児に本をプレゼントする事業として継続実施している。

②読み聞かせの回数及び実施会場の拡充（図書室、乳幼児検診会場等）

課題2：保護者に対する啓発活動の推進

①うちどく（家庭での読書活動）のさらなる啓発

\*うちどくとは、家庭内で本を通じたコミュニケーションをとること。

②町民ブックフェスティバルの実施の拡充

\*例年、春と秋に「本まつり」を実施している。

課題3：家庭への情報提供の推進

①新刊リストの作成と希望者への配布

②広報誌（図書だより）の充実

課題4：読書活動を支える人材の養成

①図書室サポーター制度の継続（サポーターの養成・協働〈読み聞かせ・サポーター講習会の実施等〉）

## Ⅱ 幼稚園・保育所における読書活動の推進

平成 29 年度現在、福島町には私立幼稚園が 1 園、公立保育所が 1 園あります。

### (1) 現状と課題

福島幼稚園では、絵本の読み聞かせを大切にしており、「子育てに絵本を」という願いのもと、平成 15 年より「絵本の広場」の活動に取り組んでいます。保育の中で 1 日に 1～2 冊の絵本の読み聞かせを行い、本選びは季節やカリキュラムに沿ったものを選び、季節や行事に関連した絵本や童話を見えるように配置したりするなどの工夫をしています。また、年長児には素話※1や物語の読み聞かせをし、創造力を培う活動をしています。

福島保育所では、「よみきかせ会」としてボランティアと連携した読み聞かせを行っています。誕生会に大型絵本やエプロンシアターなどを利用し、普段から紙芝居や素話を行うことで、いろいろな読み聞かせを実施しています。また、読み聞かせは、活動の合間や 3 時のおやつの後などに読み聞かせを実施しています。子どもたちに少しでも本を読んでもらうために、保育室や廊下など、子どもの目のつく所に本を置かれています。

それぞれの幼稚園・保育所では毎日読み聞かせが行われています。アンケートの結果からもわかるように、家庭で「読み聞かせをしている」幼稚園・保育所の保護者は約 7 割と非常に多いことから、地道に継続している読書活動が根付き始めていることがわかります。

※1：素話（すばなし）とは、絵本などを使用しない口頭のみのお話のこと。

課題 1：幼稚園・保育所における読書活動の支援

課題 2：保護者に対する啓発活動の推進

課題 3：家庭への情報提供の推進

課題 4：幼児に対する本の扱いの指導

### (2) 今後の方針

幼稚園や保育所に通う子どもが楽しさを発見することで、より一層本に

親しみを持ち、好きになってもらえると考えます。さらに読書の大切さ、読み聞かせの大切さを保護者にも伝える必要があります。読書を通じて、どのような良い影響が子どもにあるのかを明らかにし、懇談会や配布物での啓発を継続していくことで、読書活動への理解が深まるよう努めます。

また、大型絵本やしかけ絵本などの普通の絵本とは異なった資料を利用することで、子どもの本への興味を一層高めることができます。新たな取り組みとして、読書イベントで子ども向けに使用される大型絵本やエプロンシアター等のイベント用資料のリスト化を図ります。幼稚園・保育所、各学校図書館や福祉センター図書室のイベント用資料を各々の場所でリスト化し、その情報を交換・共有することで、相互貸借を可能にします。それぞれが現在所有しているものを把握することで、今後の購入を検討する際に役立てることが出来ます。各々のイベント用資料を有効活用し、読書イベントをさらに充実させていきます。

子どもに読み聞かせを行うだけではなく、子どもが自ら本を手に取り、読もうとする意欲を育てることも非常に大切です。そのためには、幼児に本の扱いを説明し、本の大切さを伝えることも必要となってきます。活字が少ない本でも自分でページをめくり、読み進めていくことに意味があります。小さい頃から多くの本に触れ、楽しさを知ることによって本への親しみがさらに深まります。家庭での保護者の読書に関する意識付けを含め、子どもの読書を習慣化させることができれば、今後の読書活動の推進もスムーズに行うことができます。

### (3) 具体的な推進方策

課題1：幼稚園・保育所における読書活動の支援

- ① イベント用資料（大型絵本・エプロンシアター等）の整理、相互貸借
- ② 子ども向け新刊リストの作成・配布

課題2：保護者に対する啓発活動の推進

- ① うちどく（家庭での読書活動）啓発
- \* うちどくとは、家庭内で本を通じたコミュニケーションをとること。

課題3：家庭への情報提供の推進

- ① 図書の紹介（広報誌の充実）

課題4：幼児に対する本の扱いの指導

- ① 幼児に本の扱いを説明し、本の大切さを伝える。

### Ⅲ 学校における読書活動の推進

平成 29 年度現在、福島町には町立小学校 2 校、町立中学校 1 校、道立高等学校が 1 校と合計して 4 校あり、それぞれの学校で様々な方法による読書活動の推進を行っています。

#### (1) 現状と課題

##### 主な読書活動の取り組み

	福島 小学校	吉岡 小学校	福島 中学校	福島 商業高校
朝の一斉読書	○	○	○	
教科等での推進	○	○	○	○
読み聞かせの実施	○	○		
読書週間や子どもの読書の日の設定		○		○
校内読書感想文・画コンクールの設定または応募の呼びかけ	○	○	○	
児童会や図書委員会によるユニークなイベントや取り組み	○	○	○	○
図書委員会による日常的な活動	○	○	○	○
学級活動における啓発活動	○	○	○	○

平成 29 年に児童生徒に行った読書アンケートによると、約 6 割の児童生徒が学校図書館を利用しています。利用していない児童生徒の理由として多かったのが、「行く時間がない」というものでした。本を読むのが「嫌い」と答えた児童生徒は約 1 割で、「どちらでもない」は約 2 割でした。嫌いな理由については、「文章を読むのが苦手」という答えが約 4 割で最も多く、次が「他の遊びの方が楽しいから」で約 3 割でした。

また、「朝読書は好きですか」という質問では、「好き」と答えた児童生徒は約 7 割で「嫌い」が約 1 割、「どちらでもない」が約 2 割でした。嫌いな理由では、「つまらないから」が約 7 割で最も多くの回答を占めました。学校の図書館や福祉センター図書室では、児童生徒が興味のある分野の本や、自分に合った良書を見つけるサポートをしています。また、先生がおすすめの本を紹介するなどの読書に関する話題を日ごろから取り上げることも有効です。

教育委員会と福祉センター図書室は、各小学校へ移動図書事業として毎

月、児童生徒への図書の紹介・貸し出しを実施しています。学級文庫の貸出しは各小学校、中学校で行っており、さらには道立図書館との連携で学校ブックフェスティバルを毎年開催しています。図書室ブックフェスティバルでは福祉センター図書室で一日司書体験などを通し、読書に関しての新たな発見を促進しています。

課題 1：移動図書事業の充実

課題 2：保護者に対する啓発活動

課題 3：児童・生徒への情報提供

課題 3：学校における読書活動の支援

## (2) 今後の方針

移動図書事業のさらなる充実を図るには図書室サポーターによる支援が必要です。サポーターの参加が増えることにより、学校訪問回数を増やし、訪問日や時間帯についても、学校側の希望日時に合わせた変更をすることも可能になります。学校からの配布物などでボランティアを啓発し、募集を続けていくとともに「うちどく」の周知も進めることで、読書活動を意識付けしていきます。

学校図書館の利用については、蔵書を充実させることで児童生徒の読書活動の推進が見込まれます。図書を購入する際には、児童生徒にリクエストを募るなど、ニーズに合った本を増やす必要があります。また、福祉センター図書室と所蔵の有無確認や購入予定の情報を交換し、選書に役立てることで資料費を有効に使うことができます。児童生徒のリクエストから購入を見送られた本を、福祉センター図書室で購入を検討することも可能です。

平成 29 年度に福島中学校のブックフェスティバルで実施した**ビブリオバトル**※2 や**ブックトーク**※3 などの取り組みを通じて本について勧め合い、読書の話題が多くなることで、読書への意欲が高まり、知識も広がります。

福祉センター図書室のサポーター制度は一般以外に、中学生や高校生の参加があると幅広い層のニーズに応えることができ、各学校図書館の運営にも好影響があると見込まれます。さらには、福祉センター図書室での職業体験を通して読書活動により興味を深め、図書室サポーターとしての活動に移行できるような環境づくりを学校と連携しながら推進します。

※ 2：ビブリオバトルは誰でもできる本の紹介コミュニケーションゲーム

「人を通して本を知る、本を通して人を知る」

#### ビブリオバトル公式ルール

1. 発表参加者が読んでおもしろいと思った本を持って集まる
2. 順番に1人5分間で本を紹介する(説明資料やパワーポイントは使用しない)
3. それぞれの発表後、参加者全員で発表に関するディスカッションを2~3分ほど行う
4. どの本が最も読みたくなったかという投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを「チャンプ本」とする

※3：ブックトークとは、ある一つのテーマに沿って数冊の本を紹介すること。紹介する人の人柄が感じることができるようブックトークが望ましい。広い意味では文字通り本について話をする事。自分の読んだ本を友人に勧めたり、図書室職員が子どもにおもしろい本を勧めることもブックトークといえる。

### (3) 具体的な推進方策

#### 課題1：移動図書事業の充実

##### ①移動図書の学校訪問回数及び時間帯の充実

\*現在、福島小・吉岡小を対象に毎月実施している。

#### 課題2：保護者に対する啓発活動

##### ①うちどく(家庭での読書活動)啓発(配布物、講演会の実施等)

#### 課題3：広報誌の充実

##### ①広報誌の充実

#### 課題4：学校・家庭への情報提供

##### ①学校図書館と福祉センター図書室の連携(学校支援等)

##### ②読書感想文・画コンクール出品の奨励

##### ③ブックトークやビブリオバトルの実施

\*「ブックトーク」とは、テーマに沿って数冊の本を紹介すること。

\*「ビブリオバトル」とは、本の紹介を競い合うコミュニケーションゲームのこと。

##### ④朝読書・読み聞かせの充実

##### ⑤ブックフェスティバル実施の拡充

\*平成22年より福島中、平成23年より福島小・吉岡小で実施されている。

## IV 福祉センター図書室における読書活動の推進

福祉センター図書室は月・水・木・金・土曜日の週に5日、午前10時から午後6時まで開室しています。さらに、月に一度、図書だよりを各戸配布し、イベント情報、新刊やおすすめの本などを紹介しています。

### (1) 現状と課題

#### 福祉センター図書室と学校との主な連携活動

	福島 幼稚園	吉岡 幼稚園	福島 保育所	福島 小学校	吉岡 小学校	福島 中学校	福島 商業高校
学級文庫用図書の貸出				○	○	○	
必要時の団体貸出				○	○	○	
学校図書館の整備支援				○	○	○	
移動図書事業での貸出				○	○		
ブックフェスティバル時の貸出				○	○	○	
授業等で使う図書の貸出		○		○	○	○	○
総合学習・職場体験での利用				○		○	○

利用状況については、福祉センター図書室の年間利用状況をみると、利用者は平成25年度をピークに減少傾向にあります。要因として町の人口減少に加え、就学児童生徒数の減少などの影響もあると考えられます。ちよボラや新婦人よみきかせの会福島支部によるボランティア活動、白楊会※4や31の会※5といった団体と、個人によるさまざまな寄贈の貢献もある中で、より利用しやすい環境を整備する必要があります。

※4：白楊会（はくようかい）とは函館中部高校卒業生で、松前・福島町に在住の有志の方々

※5：31の会（さんいちのかい）とは昭和31年に福島中学校を卒業された有志の方々

#### 福祉センター図書室の年間利用状況

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
貸出者数	5,009	5,373	4,995	4,810	3,271
閲覧者数	5,398	6,047	5,607	5,342	4,024
利用者数	10,407	11,420	10,602	10,152	7,295
開室日数	241	244	244	244	244
1日平均利用者数	43	47	44	42	30
貸出冊数	20,821	22,445	22,874	23,604	15,914

平成 29 年度の読書アンケートによると、「読みたい本をどのようにして手に入れてありますか」という質問では、児童生徒、保護者ともに「購入する」が約 4 割で最も多く、「福祉センター図書室で借りる」と答えた人は児童生徒が約 2 割、保護者は約 3 割と、いずれも購入する人が多い結果となりました。

福祉センター図書室を利用していない理由としては、児童生徒の場合「読みたい本がない」という答えが約 4 割で最も多く、「新しい本が少ない」の約 1 割を合わせると全体の約半数となり、利用しない理由の半数は、「蔵書が児童生徒のニーズに合っていない」という結果でした。福祉センター図書室では、読みたい本の問い合わせやリクエストを電話ですることが可能であり、リクエストされた本は購入の検討、または道立図書館等から借りることもできます。こういった「福祉センター図書室」でできるサービスについてさらに広く町民に周知する必要があります。

課題 1：読書推進委員会の活用

課題 2：読書活動を支える人材の養成

課題 3：関係機関との連携

課題 4：レファレンス機能※6の拡充

課題 5：町全体へ向けての読書活動支援体制の構築

※6：レファレンスとは、図書室利用者が必要な情報や資料を質問した際に、図書室職員が情報そのもの、あるいはそのために必要とされる資料を検索・提供・回答する業務のこと。

## (2) 今後の方針

読書活動に関する定期的な会議は、毎年開催している読書活動推進委員会を活用します。情報交換や情報共有を行うことで外部からの意見を広く取り入れ、熟議をもとに改善を図ることで、今まで以上に充実した活動が行えるようになります。

図書室サポーター制度については、サポーターへのコーディネートをしていきます。また、気軽に参加できるような環境づくりも必要です。募集要項を窓口や学校の保護者向けに配布し、図書だよりへ掲載するなど、様々な方法で周知していきます。その後、資質向上のために講習会を開催し、養成に努めます。

また、福祉センター図書室が遠くて利用できない人のために、「みんな

の本棚」の設置を継続しています。それぞれの地区に一室を借り、除籍本や複本を自由に利用できる場を提供していきます。

さらに町民のニーズに合った選書を心掛け、新刊を購入した際にはリストを作成して窓口で利用者に配布し、希望者にはメールアドレスに毎月配信するといったサービスも実施していきます。

道立図書館からは学級文庫等に利用する「図書館活動支援ボックス」の活用や「子ども読書相談」「学校ブックフェスティバル」「図書室ブックフェスティバル」の実施など、様々な支援事業を受けています。中でも町民文化祭時に開催される「図書室ブックフェスティバル」では、貴重な資料とキャプション一式が貸し出しされ、魅力的なテーマ展示が未利用者へのPRに有効であることから、継続するよう努めていきます。近年では、この展示部分を渡島西部四町（松前町・知内町・木古内町・福島町）が合同で企画し、巡回展示を行っています。四町図書館（室）担当者会議を開催し、合同で研修会を開くなどの情報交換の場や職員の資質向上の機会が増えつつあり、今後も連携を深め、活性化を図っていきます。

福祉センター図書室が新たな読書イベント・サービスを考え、実行していくことは読書活動の推進に不可欠です。既存の事業についても改善できる部分については積極的に改善していく必要があります。

### （3）具体的な推進方策

#### 課題1：読書推進委員会の活用

##### ①読書推進委員会の活用

\* 図書室運営協議会としても活用する。

##### ②外部評価（アンケート等）を取り入れた運営

\* 第三者の意見も取り入れた読書活動を推進する。

#### 課題2：読書活動を支える人材の養成

##### ①図書室サポーター制度の充実

\* 図書室サポーター制度は、平成26年度から始められた制度で、利用者の視点から図書室資料の整理やイベント支援を行っている。平成29年現在で、登録者数は17名である。

##### ②ボランティアの養成・協働

#### 課題3：関係機関との連携

##### ①保育所・幼稚園・学校図書室との連携

##### ②渡島西部四町事業の拡充

\* 町民文化祭での四町交流事業などを実施している。

##### ③道立図書館との連携

\*利用者から依頼のあった本を貸し借りする「相互貸借」や、3カ月ごとにまとまった数の本を借りる「大量貸借」を行っており、他にも大型絵本や紙芝居の貸借、運営についての相談なども行っている。

④渡島管内図書館振興協議会との連携

\*職員の研修機会の提供など。

課題4：レファレンス機能の拡充

①ホームページによる情報提供とレファレンスの受付

\*利用者の幅広いニーズに応える環境づくりをする。

②新刊リストの作成と希望者への配布・配信

課題5：町全体へ向けての読書活動支援体制の構築

①みんなの本棚の設置の拡充（吉岡総合センター等）

\*現在、吉岡総合センター等に設置されている。今後、新規設置や内容の充実も含めた拡充に努める。

②町民ブックフェスティバルの拡充

\*春と秋に「本まつり」を実施している。

福島町福祉センター図書室ホームページ

<http://www.town.fukushima.hokkaido.jp/tosho/h24top/h24toppagetosyo.html>

うちどくホームページ

[http://www1.e-hon.ne.jp/content/uchidoku\\_top.html](http://www1.e-hon.ne.jp/content/uchidoku_top.html)

知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト

<http://www.bibliobattle.jp/>

ブックトーク（東京都立図書館）

[http://www.library.metro.tokyo.jp/reference/tama\\_library/junior/puratanasu/puratanasu57/tabid/2346/Default.aspx](http://www.library.metro.tokyo.jp/reference/tama_library/junior/puratanasu/puratanasu57/tabid/2346/Default.aspx)

## 計画策定に向けての取り組みの目標値（次期5カ年）

計画の進捗状況が把握できるよう、計画最終年次の目標値を設定します。  
また、32年度には中間アンケートを行い、その時点での状況を確認します。

### ①本を読むのが好きな児童生徒を増やす

	前計画開始前年度 (平24)	前計画最終年度 (平29)	最終年度(平34)
児童生徒	60.8%	66.3%	70%

### ②学校図書室（館）を利用する児童生徒を増やす

	前計画開始前年度 (平24)	前計画最終年度 (平29)	最終年度(平34)
児童生徒	72.7%	70.0%	80%

### ③福祉センター図書室を利用する児童生徒を増やす

	前計画開始前年度 (平24)	前計画最終年度 (平29)	最終年度(平34)
児童生徒	68.9%	71.3%	75%

### ④読み聞かせをしている（いた）保護者を増やす

	前計画開始前年度 (平24)	前計画最終年度 (平29)	最終年度(平34)
保護者	54.9%	61.8%	65%

## 福島町読書アンケート回答者内訳（平成29年度）

このアンケートでの「本」「読書」にマンガや雑誌は含めません。

### 児童生徒

	回答数	児童生徒合計	回答率
小学生	108人	108人	100%
中学生	43人	80人	53.8%
高校生	58人	59人	98.3%
合計	209人	247人	84.6%

### 保護者

	回答数
幼保	42人
小学生	61人
中学生	30人
高校生	38人
合計	171人

## 福島町子ども読書活動推進計画策定委員名簿

氏 名	(選 任 団 体)
	所 属 ・ 職 業
鈴木 智美	(家 庭 保 育 者 関 係)
	一 般
阿部 英恵	(保 育 所 関 係)
	福 島 保 育 所
河合 ゆき江	(幼 稚 園 関 係)
	福 島 幼 稚 園
田村 澄子	(教 育 関 係)
	福 島 小 学 校
後藤 直美	(教 育 関 係)
	吉 岡 小 学 校
中田 結子	(教 育 関 係)
	福 島 中 学 校
川人 進	(教 育 関 係)
	福 島 商 業 高 等 学 校
金谷由美子	(ボ ラ ン テ ィ ア 関 係)
	よ み き か せ の 会
川合 正子	(ボ ラ ン テ ィ ア 関 係)
	ち ょ ぼ ら